

文化・芸術



「お角桜」

1990年、アクリル、スプレー
板、93.5cm×185.0cm（作家蔵）

石井としかつ（1939年〜）

石井としかつさんは、

長年自身の絵画塾で「空を見上げ樹木を
若者達に絵を教える 観察することを通じて
傍ら創作を続けてきま 人間を感じ自分自身の
した。40歳で自身のア 生き方を考える機会を
トリエを持ち創作活動 与えてくれるような気
を本格化させます。現 がします。そして幹の
在は樹木を中心にさま 堂々とした豊かさの先
ざまなモチーフに取り に徐々に延びていく枝
組んでいます。 先に人間の体内を走る

「私の物の見方、考え 血管の感じがします」
方の中心は一途（いち とは、本展へのコメン
ず）という言葉から始 トから。画面に心地よ
まります」と語る石井 い緊張感が行き渡って
さんに、大きな影響を います。画家自身のエ
与えたのが石井壬子夫 ネルギーに触れるよう
（1912〜90年）でし な一点です。（小此木）
た。師の「一日不描、一 ※11日午後2時から、
日不食」の精神は、その 展示室で石井としか
制作姿勢の根底を今な つさんのアーティスト
お支えているようで トトークを開催。

《名画の扉》

企画展「The日本・画—大川美術館
のコレクションを中心に」から